

平成 27 年度 事業報告書

日本河川・流域再生ネットワーク

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指して活動しております。また、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、中国や韓国など ARRN 会員や海外関係機関との連携を通じ、日本の優れた知見を海外に向けて発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担っております。

平成 27 年度は、河川再生に関わる情報共有基盤の整備、河川再生の普及・啓発に向けた行事開催、水辺の小さな自然再生に関わる調査研究、国内外関係団体の活動支援や協働活動などに取り組みました。

また、会員に関しては、団体会員は 5 増の 60 団体、個人会員は 48 増の 731 人となりました。

1. 平成 27 年度実施事業

【1】 河川再生に関わる情報共有基盤整備

国内外の河川再生に関連する報道ニュース、行事情報、活動事例、新刊案内、行政ニュース等について、ホームページや facebook、ニュースメール、ニュースレター等を通じて広く社会に発信し、情報循環に努めました。また、JRRN 会員や海外連携機関（ARRN 会員組織、英国河川再生センター、欧州河川再生センター、国際河川財団等）からの河川再生に関わる各種提供情報の共有を図りました。

平成 27 年度 JRRN 情報媒体の活動実績

JRRN 情報媒体	頻度	合計
ホームページ	随時	383 件
facebook	随時	299 件
ニュースメール	毎週配信	48 回
ニュースレター	毎月発行	12 回

また、「水辺の小さな自然再生ホームページ」及び「水辺の小さな自然再生 facebook」を新たに構築し、水辺のできる小さな自然再生に関わる情報共有を推進しました。

加えて、ARRN 活動の一環として、ARRN ホームページの運営・管理を担い、ARRN 活動成果やアジアにおける河川再生関連情報の普及に努めました。

【2】河川再生の普及・啓発に向けた行事等の実施

河川再生の普及・啓発、情報交換や交流を目的に、以下の企画や行事を主催・共催しました。

(1) 「桜のある水辺風景 2015」写真公募と写真集制作・普及

水辺の美しさや人々との関わりについて考えるきっかけづくりを目的として、平成 27 年に撮影された「桜のある水辺写真」を一般より募集し、17 名・51 点の作品を応募頂きました。応募作品は写真集としてとりまとめホームページで公表しました。

また、JRRN 会員アンケートにより応募作品から優秀賞及び佳作を選考しました。

(2) 水辺の小さな自然再生に関わる現地研修会及び意見交換会 《河川整備基金助成事業》

水辺でできる小さな自然再生の全国への普及促進を目的として、小さな自然再生を実践する現場での現地研修会や意見交換会を共催しました。また、すべての行事の開催報告をホームページで公表しました。

平成 27 年度 「水辺の小さな自然再生」普及促進に向けた開催行事

行事名	開催日	開催場所	参加者	共催
第 1 回「小さな自然再生」現地研修会	平成 27 年 9 月 8 日	愛知県豊田市矢作川研究所 ／岩本川	37 人	事例集編集委員会／豊田市矢作川研究所／JRRN
自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う! IV」	平成 27 年 9 月 10 日	日本大学工学部 (福島県郡山市)	80 人	林博徳、三橋弘宗、原田守啓／事例集編集委員会／JRRN
第 2 回「小さな自然再生」現地研修会	平成 27 年 11 月 2 日	滋賀県長浜市／高時川	45 人	事例集編集委員会／滋賀県／JRRN

(3) 「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウム

世界の河川技術に関する情報交換と普及活動を目的として、日本工学会・世界工学団体連盟・日本建築学会・土木学会との共催による「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウムを平成 27 年 11 月 28 日に京都にて開催しました。

本シンポジウムには国内外から 10 名の講演者を招き、約 100 名 (内 50 名の外国籍) の専門家に参加頂きました。

【3】河川再生に関わる調査研究

(1) 水辺の小さな自然再生の推進に向けた現地研修会と事例情報の普及促進 《河川整備基金助成事業》

市民が河川管理者と連携し日曜大工的に自然再生活動を行う「小さな自然再生」の普及促進に向けた人材育成や技術普及のあり方を研究しました。その成果は、過年度に有識者や若手有志と協働制作した「水辺の小さな自然再生事例集」を活用した現地研修会、最新事例紹介や今後の更なる推進の方向性を議論する意見交換会、更に本分野のナレッジを集約したホームページ制作に反映し、水辺でできる小さな自然再生の全国への普及促進を図りました。また「第9回淡海の川づくりフォーラム」（平成28年2月）に参加・発表しました。

(2) 日本が培った河川再生に関わる知見の海外普及に関わる調査研究

日本が培った河川再生に関わる技術や経験の海外普及を目的に、これまでのネットワーク活動成果や会員の協力を得ながら、これら知見の見える化を図るための方策を研究しました。

第7回世界水フォーラム（7th World Water Forum）において開催した「第12回水辺・流域再生国際フォーラム」（平成27年4月）に参加・発表しました。

第18回国際河川シンポジウム（International Riversymposium 2015）において開催した分科会「アジアの河川再生」（平成27年9月）に参加・発表しました。

世界工学会議（WECC2015: World Engineering Conference and Convention）において開催した「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウム（平成27年11月）を共催しました。

海外視察団の来日支援等を通じて、日本の知見を諸外国に普及しました。

【4】河川再生に関する冊子等の発行

河川再生の普及・啓発を目的に実施した行事等の成果を以下の冊子として取りまとめ、普及に努めました。

平成 27 年度 JRRN 発行冊子

発行月	冊子名	備考
平成 27 年 6 月	桜のある水辺風景 2015 写真集	PDF 版のみ (ホームページ公開)
平成 27 年 10 月	「小さな自然再生」現地研修会 (第 1 回) 開催報告 2015 年 9 月 8 日 (火) 愛知県豊田市・岩本川	河川整備基金助成事業 PDF 版のみ (ホームページ公開)
平成 27 年 12 月	「小さな自然再生」現地研修会 (第 2 回) 開催報告 2015 年 11 月 2 日 (月) 滋賀県長浜市・高時川	河川整備基金助成事業 印刷製本版・PDF 版 (ホームページ公開)
平成 28 年 2 月	自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う! IV」(2015 年 9 月 10 日開催) 講演録	河川整備基金助成事業 PDF 版のみ (ホームページ公開)

【5】河川再生の推進に向けた国内外団体の支援や協働

JRRN 会員、ARRN 会員を含む河川に関わる国内外の諸団体が取り組む下記の公益活動に対し、企画や行事開催、広報等の支援や協働活動を行いました。

国内の主な協働実績

年月	団体名等	支援・協働内容
通年	JRRN 会員 (団体・個人)	行事案内や刊行物の広報等 (合計 76 件)
通年	水の巡回展ネットワーク(jawanet)	「ゲリラ豪雨展」「雨といきもの展」企画運営協力
通年	東彼杵清流会、長崎県東彼杵町、筑波大学白川(直)研究室『川と人』ゼミ	「水辺からのまちおこし」プロジェクト、「彼杵おもしろ河川団」企画・協働
平成 27 年 12 月	堀川再生の会・五平太、北九州市立大学地域戦略研究所、筑波大学白川(直)研究室『川と人』ゼミ	「遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議 2015～歴史ある川の活用を目指して～」後援

海外の主な協働実績

年月	団体名等	支援・協働内容
平成 27 年 4 月	アジア河川・流域再生ネットワーク(AARRN)	「第 10 回 AARRN 運営会議」 企画運営協力 (韓国)
平成 27 年 4 月	アジア河川・流域再生ネットワーク(AARRN)	「第 12 回水辺・流域再生国際 フォーラム」運営協力 (同上)
平成 27 年 9 月-	アジア河川・流域再生ネットワーク(AARRN) 国際河川財団(IRF)	「第 18 回国際河川シンポジウ ム」分科会「アジアの河川再生」 運営協力 (オーストラリア)
平成 28 年 2 月	国際河川財団(IRF)	国際河川賞への日本応募支援
平成 28 年 3 月	韓国・国土環境研究所	技術交流

2. 会員の入退会数及び現在の会員数

団体会員、個人会員の入退会数及び平成 27 年度末現在の会員数は次表の通りです。

平成 27 年度 JRRN 会員の入会・退会状況

会員区分	平成 26 年度末	入会数	退会数	現在数
団体会員	55	5	0	60
個人会員	683	49	1	731

平成 27 年度 収入・支出決算書
(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日)

(収入)

項目	予算額	決算額	増減	備考
①助成金	900,000	900,000	0	河川整備基金助成事業
②寄付金	0	0	0	
③預金利息	30	77	47	
計	900,030	900,077	47	

(支出)

項目	予算額	決算額	増減	備考
①旅費・交通費	418,000	364,560	△ 53,440	研修会・座談会出張費
②通信・運搬費	12,000	1,620	△ 10,380	研修会資料送付
③資料・印刷費	50,000	109,836	59,836	研修会資料印刷
④賃貸料	20,000		△ 20,000	会議室使用料
⑤委託費	276,000	404,748	128,748	ホームページ制作アルバイト代、座談会速記料
⑥諸謝金	120,000	0	△ 120,000	研修会・座談会謝金
⑦消耗品費	4,000	22,907	18,907	封筒代、研修会文具等
計	900,000	903,671	3,671	

※上記は助成金のみを計上。

その他の事業に要する諸費用は、日本河川・流域再生ネットワークの事務局を共同運営する「公益財団法人リバーフロント研究所」及び「株式会社建設技術研究所国土文化研究所」の共同研究「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」より支出している。